

古文ドリル：「が」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「が」の正体（4パターン）

古文の「が」は **現代語と用法が異なる** 点が試される。大きく **4種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 格助詞「が」（主格）	体言・連体形接続	「～が」の主語	我 が 思ふ
② 格助詞「が」（連体修飾格）	体言・連体形接続	「～の」と訳す	君 が 代
③ 格助詞「が」（同格）	連体形接続	「～であって」と訳す	あはれなる が 、…
④ 接続助詞「が」	連体形接続	順接・逆接「～と／～けれども」	行く が 、戻る

識別の鉄則

1. **主格「が」** は現代語と同じ「～が」（主語を示す）
2. **連体修飾格「が」** は現代語の「～の」に相当（古文独特）
3. **同格「が」** は「～であって」（連体形＋「が」＋同じものを別の言葉で説明）
4. **接続助詞「が」** は連体形＋「が」＋別の文 → 順接 or 逆接（中世以降に発達）
5. 古文では「我が・君が・誰が」など人称代名詞＋「が」は **連体修飾格** が多い（現代の「～の」）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「我が／君が／誰が／人が」は9割「～の」（連体修飾格）

人称代名詞＋「が」を見たら、まず「～の」と訳してみる。例：「我**が**心」→「私**の**心」／「君**が**代」→「君**の**代」現代語の「～が」（主格）で訳すと違和感があるはず。

コツ② 「が」の直後で見分ける

- 直後が **体言（名詞）** → 連体修飾格「～の」（例：我が家）
- 直後が **用言（動詞・形容詞）** → 主格「～が」（例：花が咲く）
- 直後が **読点・別の文** → 接続助詞「～けれども／～と」
- 直後で **同じ人・物を別の言葉で説明** → 同格「～であって」

コツ③ 同格「が」は「(連体形) が、～なる○○」のパターン

連体形+「が」のあと、**同じ人・物を別の表現で言い換え**ている → 同格。例：「白き鳥**が**、いと大きなる、…」 → 「白い鳥**であって**、とても大きいものが…」 ヒントは「、(読点)」が「が」の直後にあること。

コツ④ 接続助詞「が」は「～けれども」で訳して通れば確定

連体形+「が」のあと **別の文** が続き、**逆接で訳して意味が通れば** 接続助詞。例：「行く**が**、戻る」 → 「行く**けれども**、戻る」

試験本番でのチェック順序

1. 「が」の **直前** が体言か連体形かを確認
2. 「が」の **直後** で品詞をチェック（体言／用言／読点／別文）
3. 人称代名詞+「が」なら即「～の」（連体修飾格）を疑う
4. 連体形+「が、～」で同格／別文なら接続助詞

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「我が心」を現代語感覚で「私が心」（主格）と誤答 → 古文では「私の心」（連体修飾格）
- 同格「が」を主格と取り違える → 直後が読点+言い換えなら同格
- 「君が代」を「君が栄える代」と主格で訳す → 「君の御代」（連体修飾格）

採点表

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30
- 入試レベル (Q81～Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

4パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ふこと。

答え：格助詞「が」（連体修飾格） **解説：**「我」（1人称）＋「が」＋動詞「思ふ」連体形＋体言「こと」。古文の「我が＋連体形」は伝統的に連体修飾格として「私の～」と訳するのが基本（「私の思うこと」）。主格と取る場合も「私が思うこと」と訳せるが、連体修飾格を優先する。

Q2. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が代は千代に八千代に。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「代」。「君の代（治世）は千代に八千代に」。古今集の有名な歌。

Q3. 次の傍線部「が」を識別せよ。

あはれなる人が、また心優しき人なり。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**連体形「あはれなる人」＋「が」＋「心優しき人なり」。「あはれな人で、また心優しい人である」（同じ人を別の言葉で説明）。

Q4. 次の傍線部「が」を識別せよ。

行くが、また戻る。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**連体形「行く」＋「が」＋「戻る」。「行くけれども、また戻る」（逆接）。中世以降の用法。

Q5. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月が出づ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**体言「月」＋「が」＋動詞「出づ」。「月が出る」。

Q6. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が家。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「我」＋「が」＋体言「家」。「私の家／わが家」。

Q7. 次の傍線部「が」を識別せよ。

風が吹く。

答え：格助詞「が」（主格） 解説：体言「風」＋「が」＋動詞「吹く」。「風が吹く」。

Q8. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が心。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「君」＋「が」＋体言「心」。「あなたの心」。

Q9. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき人が、また気高き人。

答え：格助詞「が」（同格） 解説：「いみじき人」（連体形＋人）＋「が」＋「気高き人」。「並々ならぬ人であって、また気高い人」。

Q10. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春来るが、まだ寒し。

答え：接続助詞「が」（逆接） 解説：連体形「来る」＋「が」＋「寒し」。「春は来るけれども、まだ寒い」（逆接）。

Q11. 次の傍線部「が」を識別せよ。

誰が問ふ。

答え：格助詞「が」（主格） 解説：「誰」（疑問代名詞）＋「が」＋動詞「問ふ」。「誰が尋ねる」。

Q12. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ふ人。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」、または主格的に「～が」） 解説：「我」＋「が」＋連体形「思ふ」＋体言「人」。「私が思う人」または「私の思う人」。古文では連体修飾格と主格の区別が曖昧な場合あり。

Q13. 次の傍線部「が」を識別せよ。

鳥が鳴く。

答え：格助詞「が」（主格） 解説：体言「鳥」＋「が」＋動詞「鳴く」。「鳥が鳴く」。

Q14. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御代。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「君」＋「が」＋体言「御代」。「あなた様のご治世」。

Q15. 次の傍線部「が」を識別せよ。

心ある人が、また物静かなる人。

答え：格助詞「が」（同格） 解説：「心ある人」＋「が」＋「物静かなる人」。「心のある人であって、また物静かな人」。

Q16. 次の傍線部「が」を識別せよ。

行かむと思ふが、雨降りり。

答え：接続助詞「が」（逆接） 解説：連体形「思ふ」＋「が」＋「雨降りり」。「行こうと思うけれども、雨が降っていた」（逆接）。

Q17. 次の傍線部「が」を識別せよ。

父が仰せ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「父」＋「が」＋体言「仰せ」。「父の仰せ」。

Q18. 次の傍線部「が」を識別せよ。

雨が降る。

答え：格助詞「が」（主格） 解説：「雨」＋「が」＋動詞「降る」。「雨が降る」。

Q19. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が身。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「我」＋「が」＋体言「身」。「私の身／わが身」。

Q20. 次の傍線部「が」を識別せよ。

笛吹く人が、また歌詠む。

答え：格助詞「が」（同格）or 主格 解説：「笛吹く人」（連体形＋人）＋「が」＋「歌詠む」。「笛を吹く人であって、また歌を詠む」（同格）または「笛を吹く人が、また歌を詠む」（主格）。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

接続助詞と格助詞の見分け、文脈での判別を含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が心知り給はず。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「君」＋「が」＋体言「心」＋「知り給はず」。「あなたの心をご存知ない」。

Q22. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月明らかなる夜なるが、雲も出でぬ。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「明らかなる夜なる」（断定「なり」連体形）＋「が」＋「雲も出でぬ」。「月が明らかな夜であって、雲も出ていない」。

Q23. 次の傍線部「が」を識別せよ。

風吹くが、波荒し。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「吹く」連体形＋「が」＋「波荒し」。古文の接続助詞「が」は標準的に逆接（～けれども）。「風は吹くけれども、波が荒い」と訳す。順接（～ので）の用法は中世以降の発達で稀。

Q24. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心、君は知らじ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」。「私の心」。

Q25. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月が出でて、夜明けたり。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「月」＋「が」＋下二段「出づ」連用＋「て」＋「夜明けたり」。「月が出て、夜が明けた」。

Q26. 次の傍線部「が」を識別せよ。

父が仰せに従ふ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「父」＋「が」＋体言「仰せ」＋格助詞「に」＋動詞「従ふ」。「父の仰せに従う」。

Q27. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき宿世の人なるが、いま落ちぶれぬ。

答え：格助詞「が」（同格）or 接続助詞「が」（逆接） **解説：**「人なる」（断定連体）＋「が」＋「いま落ちぶれぬ」。 - 同格：「並々ならぬ宿縁の人で、今は落ちぶれてしまった」 - 接続助詞（逆接）：「並々ならぬ宿縁の人だったが、今は落ちぶれてしまった」

Q28. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が身を恨み給ふな。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「身」。「私の身を恨みなさるな」。

Q29. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春来るが、なほ寒し。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**連体「来る」＋「が」＋「寒し」。「春が来るけれども、なお寒い」。

Q30. 次の傍線部「が」を識別せよ。

風が吹けば、波立つ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「風」＋「が」＋已然「吹け」＋「ば」（原因）。「風が吹くので、波が立つ」。

Q31. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御志。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「御志」。「あなた様のお志」。

Q32. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春行くが、なほ花散らず。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「行く」連体＋「が」＋「散らず」。「春が行くのに、なお花が散らない」。

Q33. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が生まれし日。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」、または主格） **解説：**「我」＋「が」＋連用「生まれ」＋過去「き」連体「し」＋体言「日」。「私の生まれた日」または「私が生まれた日」。

Q34. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月清き夜なるが、また風静かなり。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「清き夜なる」＋「が」＋「風静かなり」。「月が清らかな夜で、また風も静かだ」。

Q35. 次の傍線部「が」を識別せよ。

雪降り出づるが、いとあはれなり。

答え：格助詞「が」（同格） or 接続助詞 **解説：**「降り出づる」連体＋「が」＋「あはれなり」。「雪が降り始めるのが、しみじみと趣がある」（主格的同格）。

Q36. 次の傍線部「が」を識別せよ。

父が怒り給ふ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「父」＋「が」＋動詞「怒り」連用＋尊敬「給ふ」。動詞が活用語の形で続いているので主格と確定。「父がお怒りになる」と訳す。

Q37. 次の傍線部「が」を識別せよ。

物言はぬ人なるが、よく心知り給ふ。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「言はぬ人なる」（断定連体）＋「が」＋「心知り給ふ」。「物を言わない人で、よく心を知っていらっしゃる」。

Q38. 次の傍線部「が」を識別せよ。

心安らかなる人が、いと頼もし。

答え：格助詞「が」（主格）or 同格 解説：「心安らかなる人」＋「が」＋形容詞「頼もし」。「心安らかな人が、とても頼もしい」（主格）または同格的に「心安らかな人で、とても頼もしい」。

Q39. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春雨降るが、花咲かず。

答え：接続助詞「が」（逆接） 解説：「降る」連体＋「が」＋「咲かず」。「春雨が降るけれども、花が咲かない」。

Q40. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御身を案じ給ふ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） 解説：「君」＋「が」＋体言「御身」。「あなた様のお身を案じなさる」。

Q41. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ふこと、人に語り。

答え：格助詞「が」（主格）or 連体修飾格 解説：「我」＋「が」＋連体「思ふ」＋体言「こと」。「私が思うこと／私の思うこと」。

Q42. 次の傍線部「が」を識別せよ。

名にし負ふ都鳥なるが、いま我れに告ぐ。

答え：格助詞「が」（同格） 解説：「都鳥なる」＋「が」＋「告ぐ」。「名前として持つ都鳥であって、今私に告げる」。

Q43. 次の傍線部「が」を識別せよ。

風が吹くも、波静かなり。

答え：格助詞「が」（主格） 解説：「風」＋「が」＋動詞「吹く」＋係助詞「も」＋形容動詞「静かなり」。「風が吹いても、波は静かだ」。

Q44. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心、いまだ定まらず。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」。「私の心は、まだ定まらない」。

Q45. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月明らかなるが、雲なくして照らす。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「明らかなる」連体＋「が」＋「雲なくして照らす」。「月が明らかであって、雲もなく照らす」。

Q46. 次の傍線部「が」を識別せよ。

鶯鳴くが、まだ春なほ浅し。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「鳴く」連体＋「が」＋「浅し」。「鶯が鳴くけれども、まだ春は浅い」。

Q47. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が家、京にあり。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「家」。「私の家は、京にある」。

Q48. 次の傍線部「が」を識別せよ。

鳥の飛ぶが見ゆ。

答え：格助詞「が」（主格、または準体的） **解説：**「飛ぶ」連体＋「が」＋動詞「見ゆ」。「鳥が飛ぶの（こと）が見える」。準体助詞的用法。

Q49. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が仰せに従ひ給へ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「仰せ」。「あなた様の仰せに従いなさい」。

Q50. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき宿世の人なる**が**、いかなる縁にてかかかる。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「人なる」＋「が」＋「いかなる縁にてかかかる」。「並々ならぬ宿縁の人であって、どのような縁でこのように振る舞うのか」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

文脈・係り結び・引用が絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「が」を識別せよ。

あひ知りたる人**が**、また同じ道に行く。

答え：格助詞「が」（同格） or 主格 **解説：**「知りたる人」（連体）＋「が」＋「行く」。「知り合いの人で、また同じ道に行く」（同格） or 「知り合いの人が、また同じ道に行く」（主格）。

Q52. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我**が**思ふ人、いま死にぬ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋連体「思ふ」＋体言「人」。「私の思う人が、今、死んでしまった」。

Q53. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月明らけき夜なる**が**、なほ寒し。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「明らけき夜なる」＋「が」＋「寒し」。「月が明るい夜で、それでも寒い」。

Q54. 次の傍線部「が」を識別せよ。

鳥のさへづる**が**、いとあはれなり。

答え：格助詞「が」（主格的準体助詞） **解説：**「さへづる」連体＋「が」＋形容動詞「あはれなり」。「鳥がさえづるのが、とてもしみじみと趣がある」。

Q55. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君**が**御志ありて、世に伝はる。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「御志」。「あなた様のお志があって、世に伝わる」。

Q56. 次の傍線部「が」を識別せよ。

知らぬ人**が**問ふ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「知らぬ人」連体＋「が」＋動詞「問ふ」。「知らない人が尋ねる」。

Q57. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我**が**国の人、もろこしに渡る。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「国」。「我が国の人**が**、中国に渡る」。

Q58. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき才ありし人なる**が**、世に出でず。

答え：格助詞「が」（同格） or 接続助詞（逆接） **解説：**「人なる」＋「が」＋「世に出でず」。 - 同格：「並々ならぬ才能を持っていた人で、世に出ない」 - 逆接：「並々ならぬ才能を持っていた人**が**、世に出ない」

Q59. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる——この歌、人皆知るが、その心、知らず。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「知る」連体＋「が」＋「知らず」。「この歌を人々皆知っているが、その心は知らない」。

Q60. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いと尊き人なるが、人前にては謙りて、自らを卑しめ給ふ。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「尊き人なる」＋「が」＋「謙りて」。「とても尊い人であって、人前では謙遜して、自らを低めなさる」。

Q61. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心ながらも、悲し。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」＋助詞「ながら」＋「悲し」。「私の心ながらも、悲しい」。

Q62. 次の傍線部「が」を識別せよ。

仏に祈らむがためなり。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、「～の」） **解説：**「祈らむ」（未然＋意志「む」連体）＋「が」＋「ため」。「仏に祈ろうとするためである」。「～むがため」は古文の定型表現で「～のため」と訳す連体修飾格。

Q63. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春が過ぐる。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「春」＋「が」＋上二段「過ぐ」連体「過ぐる」。「春が過ぎる」。

Q64. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ふ人にあらで、誰がゆゑかかかる目に遭ふ。

答え：①最初の「が」＝連体修飾格 ②後の「が」＝主格 **解説：** - 「我が思ふ人」：私の思う人（連体修飾格） - 「誰がゆゑ」：誰のせいで（連体修飾格） **正答（修正）：**両方とも連体修飾格「～の」が自然。「私の思う人でなくて、誰のせいでこのような目に遭うのか」。

Q65. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月清き夜なるが、なほ更けて、月かたぶく。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「清き夜なる」＋「が」＋「更けて」。「月が清らかな夜であつて、なお更けて、月が傾く」。

Q66. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いとあはれなる人なるが、世を背き給ひぬ。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「人なる」（断定「なり」連体形）＋「が」＋「世を背き給ひぬ」。「とともしみじみと趣のある人であるけれども、出家なされた」。連体形＋「が」は接続助詞の典型。

Q67. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御身、健やかにあれ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「御身」。「あなた様のお身が、健やかにあれ」。

Q68. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が家に來たる人、皆もてなさず。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「家」。「私の家に來た人を、皆もてなさない」。

Q69. 次の傍線部「が」を識別せよ。

木の葉散るが、なほ風吹かず。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「散る」連体＋「が」＋「吹かず」。「木の葉が散るが、なお風は吹かない」（矛盾）。

Q70. 次の傍線部「が」を識別せよ。

雨が降る音、いとあはれ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「雨」＋「が」＋連体「降る」＋体言「音」。「雨が降る音は、とてもしみじみと趣がある」。

Q71. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき宿世の人なるが、ありがたきこと多し。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「人なる」＋「が」＋「多し」。「並々ならぬ宿縁の人で、めったにないことが多い」。

Q72. 次の傍線部「が」を識別せよ。

桜花散るが、なほ春寂し。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「散る」連体＋「が」＋「寂し」。「桜の花が散るが、なお春は寂しい」。

Q73. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月隠るるが見ゆ。

答え：格助詞「が」（主格的準体） **解説：**「隠るる」連体＋「が」＋動詞「見ゆ」。「月が隠れるのが見える」。

Q74. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心、いま定まりぬ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、=「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」。「私の心は、今、定まった」。

Q75. 次の傍線部「が」を識別せよ。

旅人**が**問ふ。

答え：格助詞「が」（主格） **解説：**「旅人」＋「が」＋動詞「問ふ」。「旅人が尋ねる」。

Q76. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いと若き人**が**、また心しっかりせる。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「若き人」＋「が」＋「心しっかりせる」。「とても若い人であって、また心がしっかりしている」。

Q77. 次の傍線部「が」を識別せよ。

名にし負ふ都鳥**が**ゆゑ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、=「～の」） **解説：**「都鳥」＋「が」＋体言「ゆゑ」。「都鳥のゆゑに」。

Q78. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我**が**ゆゑに、君は苦しみ給ふ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、=「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「ゆゑ」。「私のせいで、あなた様は苦しんでいらっしゃる」。

Q79. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君**が**心、定まらず。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、「～の」） **解説：**「君」（体言）＋「が」＋「心」。「あなたの心は、定まらない」。人称代名詞＋「が」＋体言は連体修飾格の典型。

Q80. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が思ひ給ふやう。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」、または主格） **解説：**「君」＋「が」＋連体「思ひ」＋尊敬「給ふ」＋体言「やう」。「あなた様がお思いになるご様子／あなた様のお思いになるご様子」。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が身、いまだ若きを、なほ嘆く。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「身」。「私の身が、まだ若いのに、なお嘆く」。

Q82. 次の傍線部「が」を識別せよ。

いみじき才ある人なるが、世に出でずして、惜しき限りなり。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「才ある人なる」＋「が」＋「世に出でずして」。「並々ならぬ才能を持つ人であって、世に出ないで、惜しいきわみだ」。

Q83. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御代、千代にもがな。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「御代」＋「千代にもがな」（願望）。古今集の有名な歌。「君の御代が、千代に続いてほしいなあ」。

Q84. 次の傍線部「が」を識別せよ。

中宮、御文書か~~せ~~たまふが、ことのほかに気高し。

答え：格助詞「が」（同格） or 接続助詞 **解説：**「書かせたまふ」（尊敬の二重敬語）連体＋「が」＋「気高し」。 - 同格：「中宮がお書きになることで、特に気高い」 - 接続助詞（逆接）：「中宮がお書

きになるが、特に気高い」

Q85. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ふ人を見ず、なほ嘆く。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」、または主格） **解説：**「我」＋「が」＋連体「思ふ」＋体言「人」。「私の思う人を見ないで、なお嘆く」。

Q86. 次の傍線部「が」を識別せよ。

飛ぶ鳥のさへづり、いと聞きにくきが、なほ耳澄まして聞く。

答え：接続助詞「が」（逆接）or 格助詞（同格） **解説：**「聞きにくき」連体＋「が」＋「澄まして聞く」。「聞きにくいけれども、なお耳を澄まして聞く」（逆接）。

Q87. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心ぞ嘆かるる。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」＋係助詞「ぞ」＋連体「嘆かるる」（嘆かる連体形）。「私の心が、嘆かれる」。

Q88. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月明らかなる夜なるが、雲なくしてさやけし。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「明らかなる夜なる」＋「が」＋「さやけし」。「月が明らかな夜であって、雲もなく清らかだ」。

Q89. 次の傍線部「が」を識別せよ。

君が御身を案じ申し上げ給ふ人、世に多し。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「君」＋「が」＋体言「御身」。「あなた様のお身を案じ上げる人が、世に多い」。

Q90. 次の傍線部「が」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」、または主格） **解説：**「我」＋「が」＋連体「思ふ」＋体言「人」。伊勢物語「東下り」の有名な歌。「都鳥よ、私の思う人はいるかいないか」。

Q91. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が心ながら、いかにせむ。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋体言「心」＋助詞「ながら」。「私の心ながら、どうしようか」。

Q92. 次の傍線部「が」を識別せよ。

嵐の風吹くが、舟出でぬ。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「吹く」連体＋「が」＋「出でぬ」。「嵐の風が吹いているが、舟が出ていく」（逆接）。

Q93. 次の傍線部「が」を識別せよ。

月の出づるが待ち遠し。

答え：格助詞「が」（準体助詞的主格） **解説：**「出づる」連体＋「が」＋形容詞「待ち遠し」終止。「月が出るのが、待ち遠しい」。

Q94. 次の傍線部「が」を識別せよ。

我が思ひ嘆くこと、限りなし。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説：**「我」＋「が」＋連体「思ひ嘆く」＋体言「こと」。「私の思い嘆くことには、限りがない」。

Q95. 次の傍線部「が」を識別せよ。

唐土の人なるが、和歌をも詠み給ふ。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「人なる」＋「が」＋「詠み給ふ」。「中国の人であって、和歌をもお詠みなさる」。

Q96. 次の傍線部「が」を識別せよ。

雪降り出づる**が**見え給ふ。

答え：格助詞「が」（主格的準体） **解説：**「降り出づる」連体＋「が」＋「見え給ふ」。「雪が降り始めるのが、お見えになる」。

Q97. 次の傍線部「が」を識別せよ。

春過ぎて夏来**ぬるが**、まだ涼し。

答え：接続助詞「が」（逆接） **解説：**「来ぬる」（完了「ぬ」連体形）＋「が」＋「涼し」。「春が過ぎて夏が来てしまったけれども、まだ涼しい」。連体形＋「が」は接続助詞の典型。

Q98. 次の傍線部「が」を識別せよ。

心ある人なる**が**、和歌の道に心入れ給ふ。

答え：格助詞「が」（同格） **解説：**「人なる」＋「が」＋「心入れ給ふ」。「心ある人であって、和歌の道に心を入れていらっしゃる」。

Q99. 次の傍線部「が」を識別せよ。

ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。毛のよく抜くる銀の毛抜き。主そしらぬ従者。つゆの癖なき人。かたち心ありさま勝れすぐれて、世にふる程いささかきずなき。同じ所に住む人の、かたみに恥ぢかはし、いささかのひまなく用意した**るが**、見えがたきわざかな。

答え：格助詞「が」（体言の代用） **解説：**「用意したる」（存続「たり」連体形）＋「が」＋「見えがたきわざ」。枕草子「ありがたきもの」段の改変。連体形＋「が」で「もの・こと」を補えるので体言の代用。「同じ所に住む人がお互いに恥ぢかしかがって、ちよつとも油断なく心配りしている【こと】が、見つけがたいことだなあ」。

Q100. 次の傍線部「が」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。たましきの都のうちに棟を並べ、薨を争へる、高き、いやしき、人の住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ぬれば、昔ありし家はまれなり。或は去年焼けて今年作り。或は大家ほろびて小家となる。住む人もこれに同じ。所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二三十人**が**中に、わづかにひとりふたりなり。

答え：格助詞「が」（連体修飾格、＝「～の」） **解説**：方丈記。「二三十人」＋「が」＋体言「中」。「二三十人の中で、わずかに一人二人である」。

入試レベル / 20

合計 / 100

あとがき

「が」の識別の核心： - **格助詞「が」（主格）** 現代語と同じ「～が」（主語） - **格助詞「が」（連体修飾格）** 現代語の「～の」に相当（古文独特） - **格助詞「が」（同格）** 連体形＋「が」＋同じものを別の表現 - **接続助詞「が」** 中世以降に発達、連体形＋「が」で逆接が多い

「我が・君が・誰が」は **連体修飾格** が圧倒的に多い（＝「私の・あなたの・誰の」）。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosenensei.com>